

# 漁況海況予報事業（海洋観測調査） 漁況海況情報サービス事業

本永文彦\*

## 1. 目的および内容

沖縄近海（沖縄島南部沿岸、沖縄島北西方の黒潮流域）の海洋観測を実施し海況データを収集することによって海況の現況を把握する。また、情報交換推進事業における漁況予報へ結びつけるために、海況・気象情報の蓄積を図ることを目的とする。

なお今年度から、漁況海況情報サービス事業（国庫補助）が始まった。同事業は黒潮域のより詳しい流れの観測実施とそのデータの迅速な処理と報告とで成っている。

1993年度（平成5年度）は、沖合定線を3回、沿岸定線を10回実施した。

## 2. 方法

調査定線は、沖縄島北西沖合定線（図1）および沖縄島南部沿岸定線（図2）の2定線で実施した。調査の実施状況、調査船の概要および観測項目については、表1、2、3、4に示した。

今年度は、沖合定線のうち久米島北西方の定線について観測点を若干変更した。従来に比べて陸棚上の2測点を減らし、逆に太平洋側の測点を増やした。これにより、陸棚上の0-7A、0-7A'を廃止し、0-6と0-8との間に0-6'、0-7、0-7'を設け、0-13の太平洋側に0-13'、0-14を新設した。

## 3. 結果

### 沿岸定線調査

沖縄島南部海域での観測結果からP-8～P-9、P-14～P-17の6点を合計して平均値を求め、沿岸定線代表点における平均水温とした。沿岸定線代表点における水温の季節変化と年偏差の季節変化を図3、4に示した。また、表面流況は5に示した。なお、10、

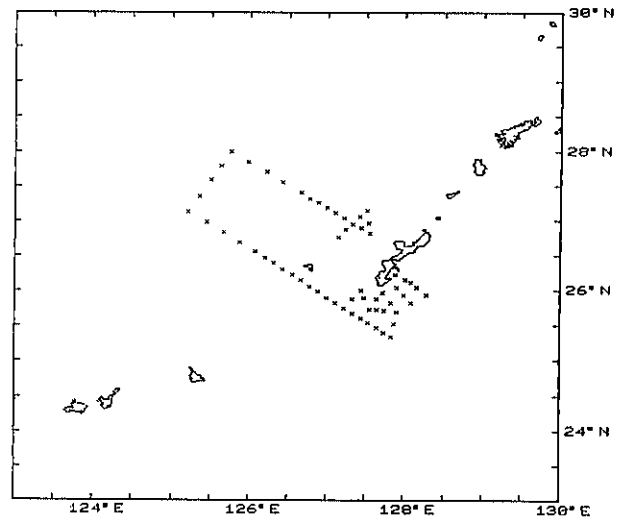


図1 沖合定線定点図（O）

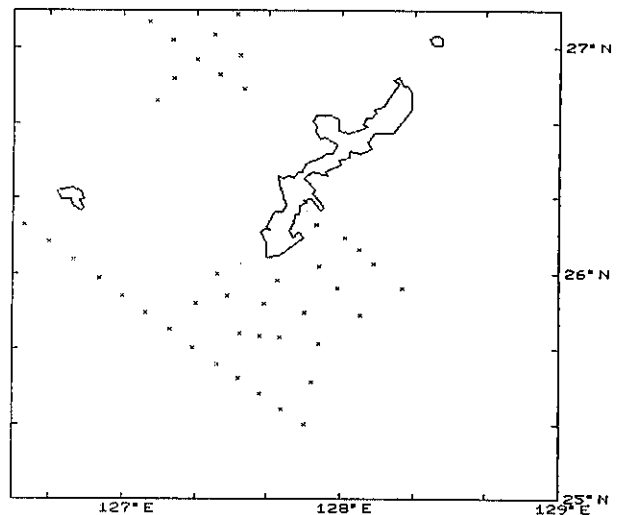


図2 沿岸定線定点図（P）

表1 沖合定線調査実施状況

航次	実施年月日	船名	調査員	観測点数
1	1993年 6月29日～7月1日	図南丸	本永文彦	22
2	8月17～18日	図南丸	本永文彦	11
3	1994年 2月5～7日	図南丸	本永文彦	22

\* 現職場：農林水産部 漁政課

表2 沿岸定線調査実施状況

航次	実施年月日	船名	調査員	観測点数
1	1993年 4月27~28日	図南丸	本永文彦	19
2	5月18日	くろしお	外間 実	8
3	6月22~23日	図南丸	本永文彦	19
4	7月 2~ 3日	図南丸	本永文彦	19
5	8月16~17日	図南丸	本永文彦	19
6	9月13~14日	図南丸	本永文彦	19
7	11月 8~10日	図南丸	本永文彦	19
8	12月13~14日	図南丸	本永文彦	12
9	1994年 2月 4~ 5日	図南丸	本永文彦	19
10	3月 3~ 4日	図南丸	本永文彦	19

注. 10、1月は天候不良のため欠測。

表3 観測船の概要

	図南丸	くろしお
乗組員	喜納政府船長ほか13名	外間実船長ほか4名
総トン数	216.09ト	34.82ト
速力	11ノット	10.8ノット
主機関	新潟鐵工所製 6MG25BX 1,000PS×1基	ヤンマーディーゼル製 6BN-DT 270PS×1基
補助機	ヤンマーディーゼル製 2KFL-T 185PS×2基	ヤンマーディーゼル製 3SML 2TL 38PS×1基 20PS×1基
測深機	鶴見精機製 TS-VS1型 ワイヤー(2.1mm)1,500m	本地製 HHW-2型 ワイヤー(2.3mm)1,500m
音響測深機	日本無線製(カラー) JFV-216	吉野電気製(カラー) FVC-262
測位システム	日本無線製GPSプロッタ JLU-121P	吉野電気製GPS GP-500

観測項目	沖合定線調査	沿岸定線調査
CTD観測	800mまで、25点	800mまで、19点
表面流況観測(GEK)	25点	19点
一般気象海象観測	25点	19点

表4 定線調査の観測項目

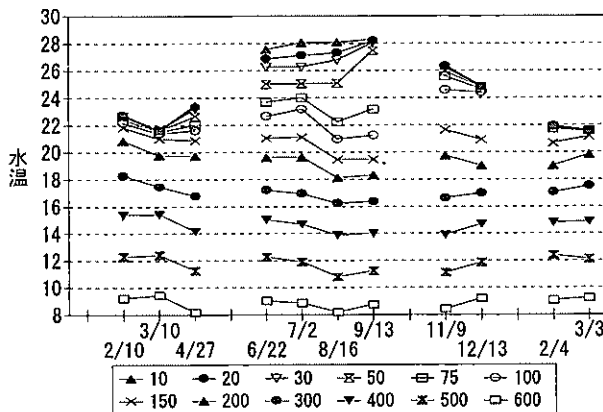


図3 沿岸定線代表点における季節変化  
1993年(10~600m)

1月は天候不良のため観測を行っていない。  
1993年4月27~28日: 10~20m層でやや低め、ほかは  
平年並みであった。表面流況は慶良間南と久高島南東

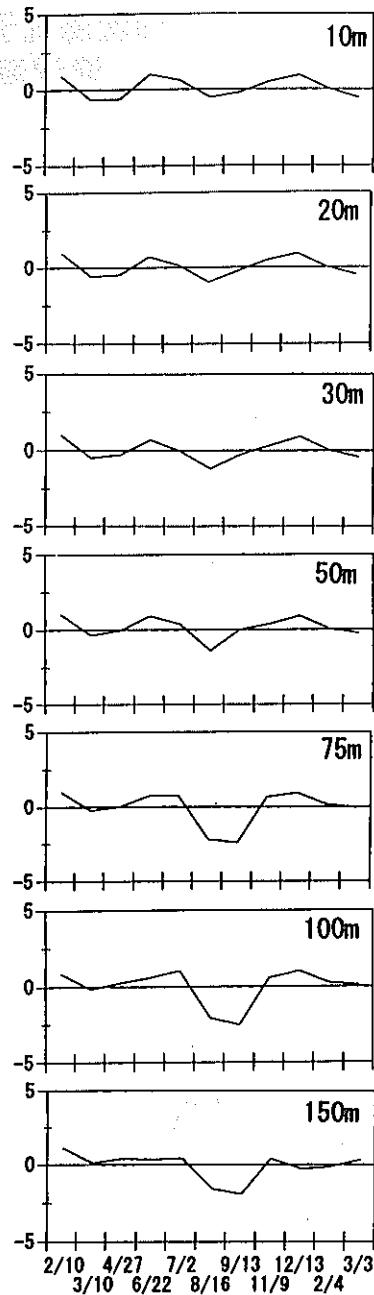


図4 沿岸定線代表点における水温偏差の季節変化  
10~150m層(1993年2月~1994年3月)

で0.7~1.7ktの東流であった。

同年5月18日: 今観測は都合によりP-1~P-8の  
8測点で終了した。モニター点欠測のため平年偏差の  
計算は行えなかった。表面流況は慶良間南で南東流で  
あった。

同年6月22~23日: 10~75m層で0.7~1.0℃高め、100  
m層でやや高めであった。表面流況は慶留間南で0.9  
~1.1ktの南東流、久高島沖で北東流であった。

同年7月2～3日：10m層でやや高め、75～100m層で高めであり前6月の高水温傾向が75m以深でみられた。表面流況は全体に0.4～1.0ktの東～東南東流であった。

同年8月16～17日：全層で低め、中でも20～150m層で1.0～2.2°C低めであった。表面流況は不揃いであるが全体に南西方寄りの流れであった。

同年9月13日～14日：75～150m層で1.9～2.5°C低めであり、前8月の低水温傾向が75m以深でみられた。表面流況は不揃いであるが全体に北東方寄りの弱い流れであった。

同年11月8～10日：全層でプラス偏差であり、10m、75～100m層でやや高めであった。表面流況は不揃いであるが全体に北東方寄りの流れであった。

同年12月13～14日：10～100m層で0.9～1.0°C高めであった。表面流況は不揃いで弱い流れであった。

1994年2月4～5日：全層で平年並みであった。表面流況は不揃いであり全体に東方寄りの流れであった。

同年3月3～4日：10m層でやや低めのほかは平年並みであった。表面流況は慶良間南で弱い東流、久高島沖で弱い東～南東流であった。

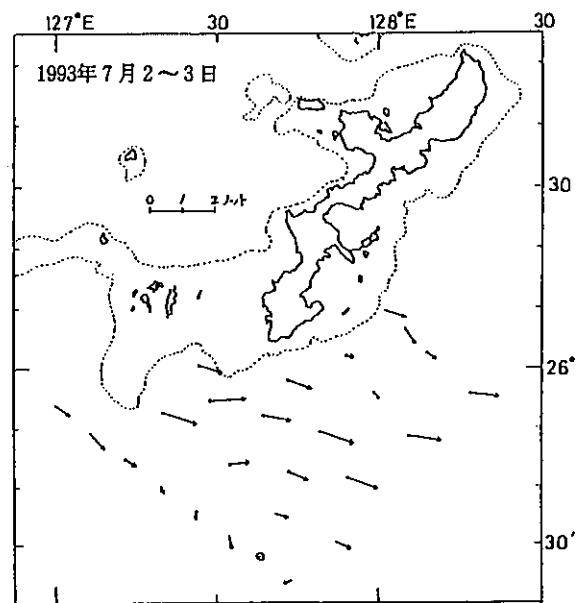
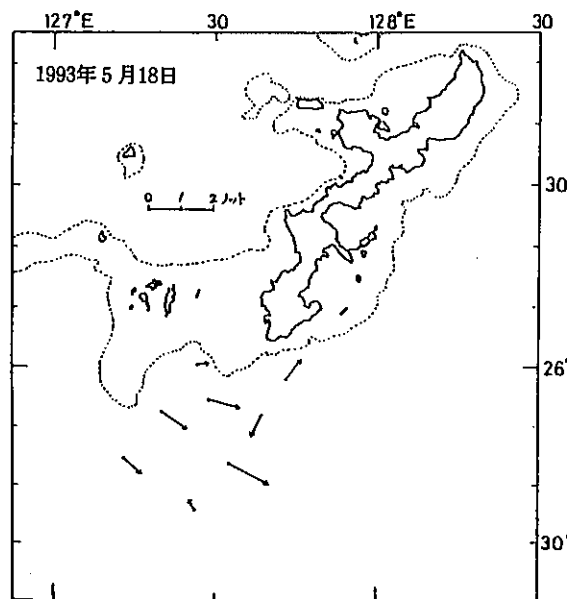
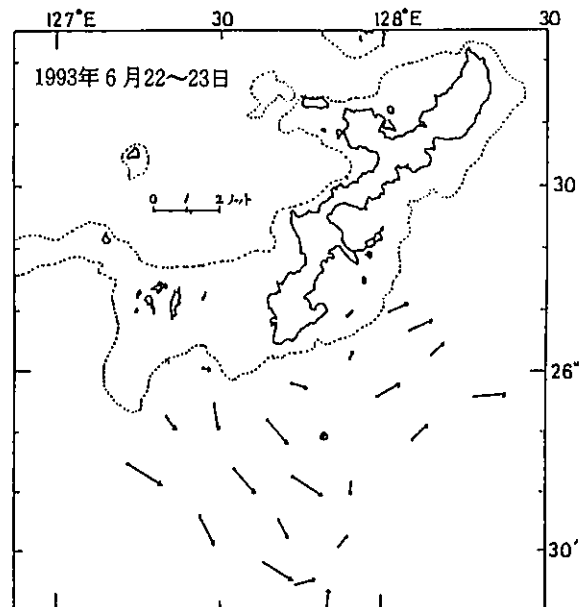
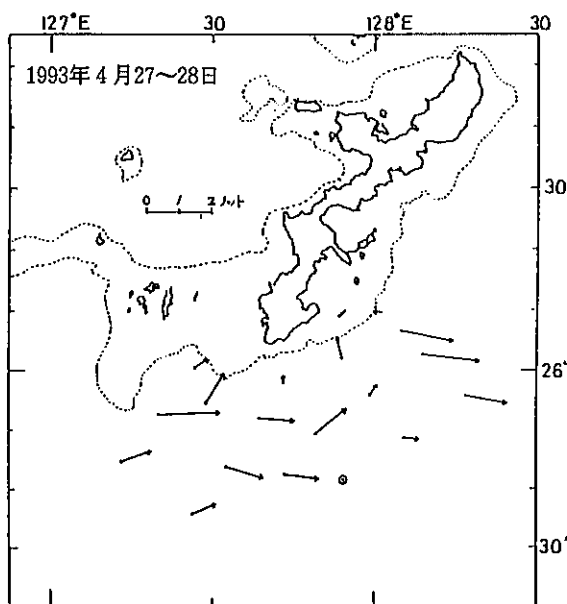


図5 沖縄島南部での表面流況

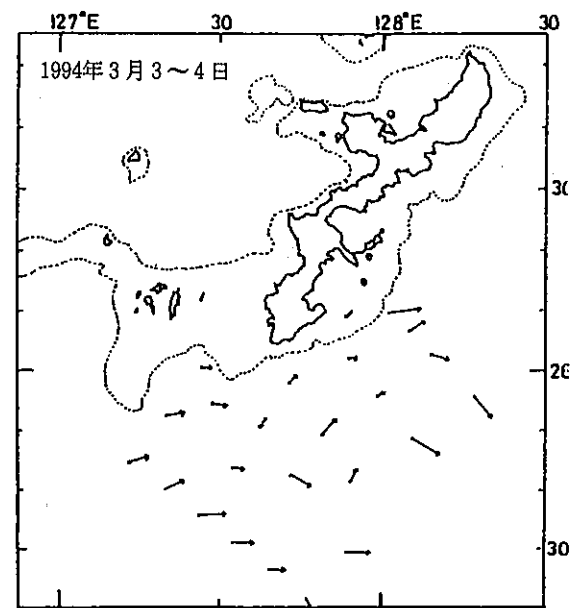
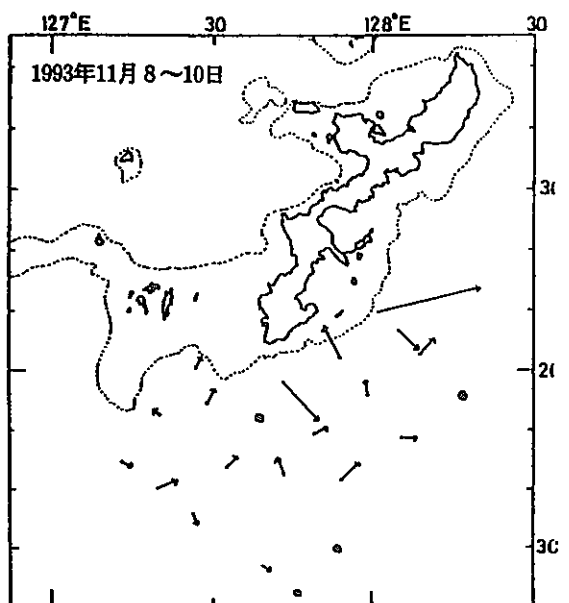
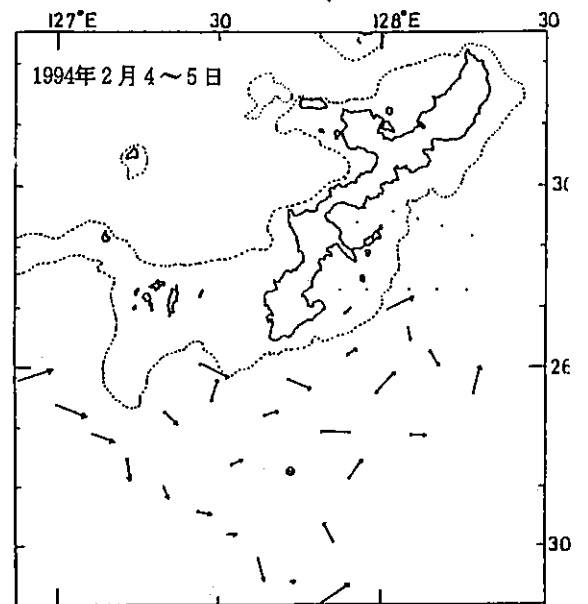
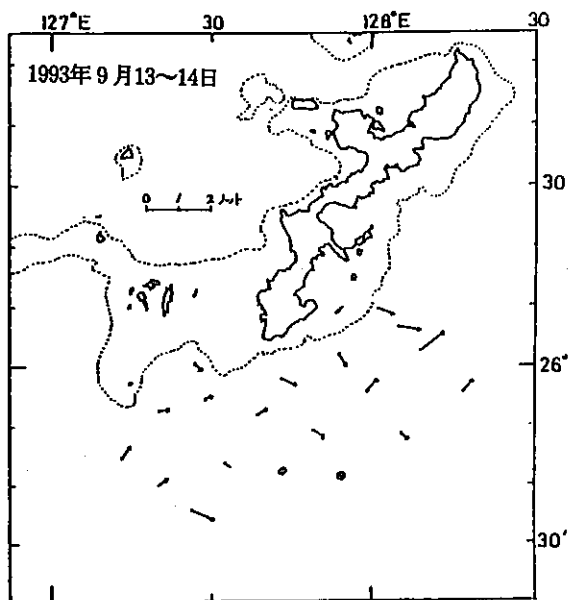
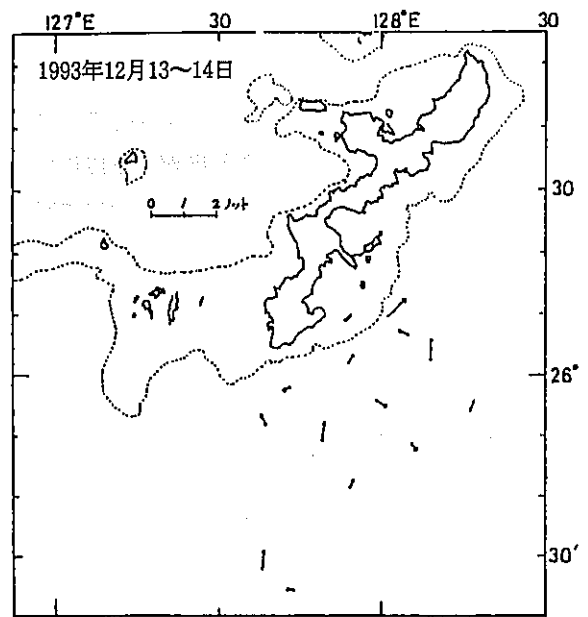
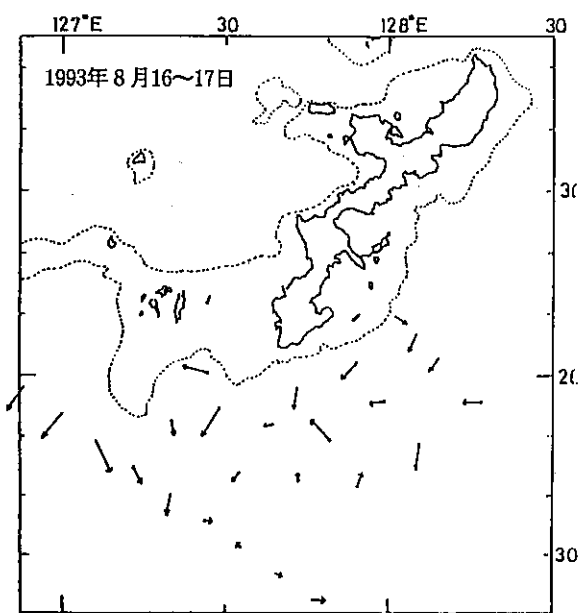


図5 沖縄島南部での表面流況(つづき)

### 沖合定線調査

1993年6月29日～7月1日の黒潮の強流域は、久米島北西方で観測点0-9～0-10に伊江島北西方で観測点0-3'～0-5にみられた。黒潮反流は久米島西～南で東～南東流、伊江島北西で南～南西流がみられた。

同年8月17～18日の観測では、天候不良のため黒潮流域から陸棚域の観測を断念し、黒潮反流域のみで観測を行った。黒潮反流は、久米島南で弱い南東流、伊江島北西方で弱い南東流がみられた。

1994年2月5～7日の黒潮の強流域は、久米島北西方で観測点0-9'～0-10に伊江島北西方で0-4'にみられた。黒潮反流は、久米島南西で南流、伊江島北西方で顕著ではないが南流がみられた。

### 沖縄島近海の表面水温

西日本海況旬報（長崎海洋気象台発行）より作成した沖縄島近海代表4点における表面水温偏差を図5、6に示した。久米島（黒潮反流域）と沖縄島南部、北大東島西（太平洋側）の海域では全体に高め傾向であった。久米島で4～5月に低め、9～10月平年並み、3月平年並みを除けば全体にやや高めであった。沖縄島南部では4、9、3月に平年並みのほかは高めであった。北大東島では8～10月に平年並み、2月平年並み、3月低めのほかは高めであった。一方、与那国島北（黒潮域）では小刻みに変動していた。4月は低め、5～9月は平年並み、10～3月はやや低め基調で経過した。

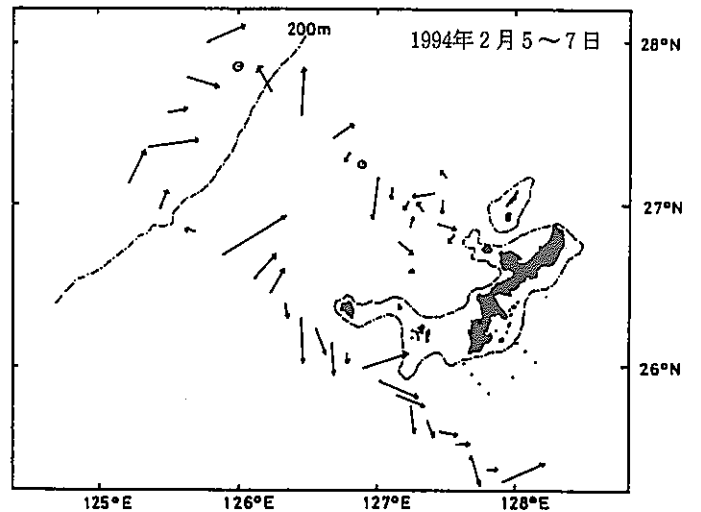
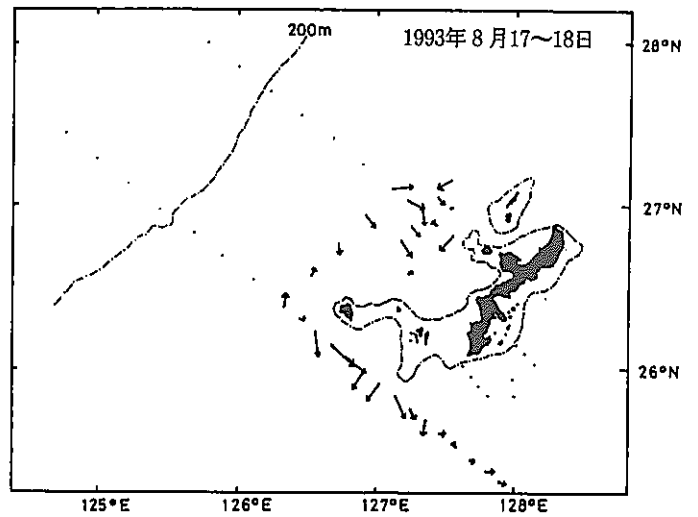
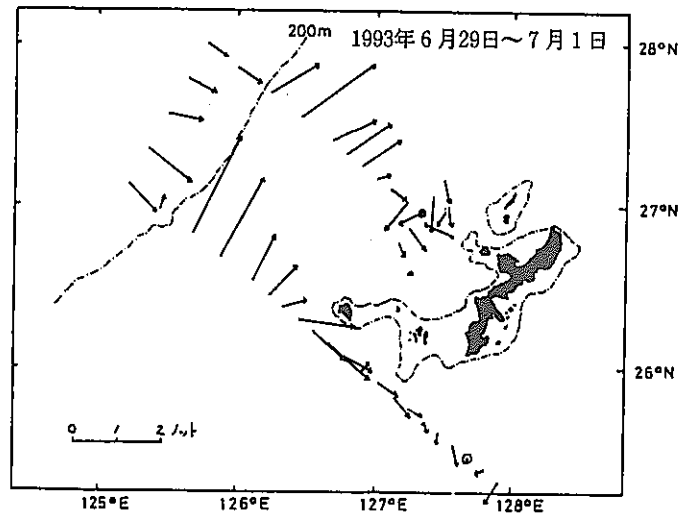


図6 沖縄島北西方の表面流況

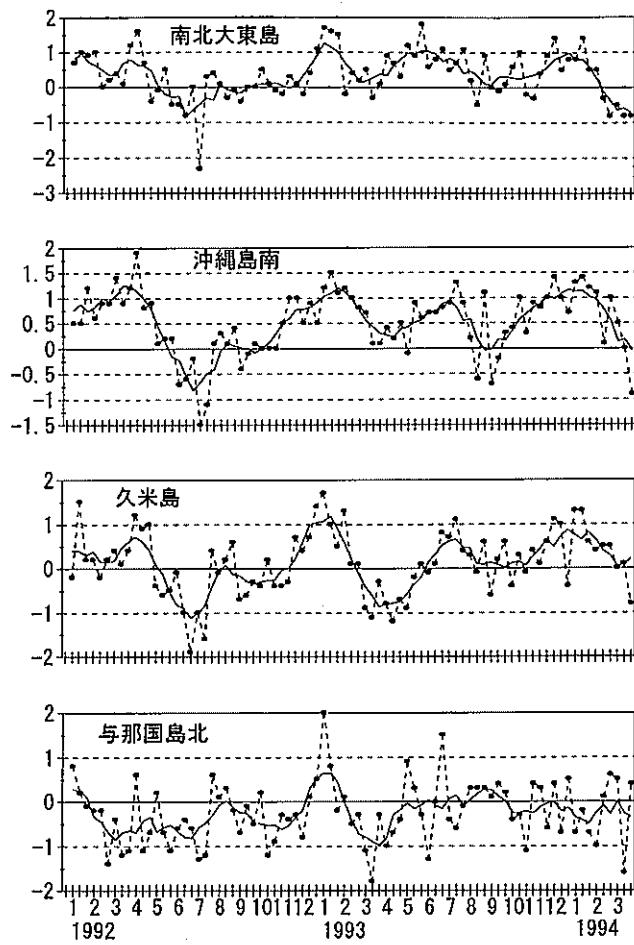


図7 沖縄近海における表面水温偏差(5旬移動平均)